横浜市立上星川小学校　　令和５年４月 28 日

学 校 だ よ り　５月号

～友だちいっぱい　夢いっぱい　未来へ向かって　かがやく星の子～

自己有用感の高まりを目指して

校長　西山　久美子

令和5年度が始まり3週間が過ぎ、子ども達は、新しい学年での生活も慣れてきた様子です。朝は、班長が班の仲間を気遣いながら登校する頼もしい姿が見られます。門を入るときの子ども達の明るい元気な挨拶は、気持ちの良い１日のスタートになっています。

入学から 11 日目には「入学おめでとうの会」を行いました。全校児童が1年生を迎え、クイズや校歌で星の子の仲間入りを祝う会です。6年生と1年生が手をつなぎ、みんなが待つ体育館に入場するところから始まります。6 年生は手をつないでいる 1 年生の表情を見ながら歩幅を合わせ、しっかりとリードしていました。司会やゲーム担当、挨拶担当の子ども達による堂々とした進行、全校児童のメリハリのある参加姿勢。新年度初めての全校活動でしたが、星の子達の立派な姿が表れ、みんなの気持ちが一つになった時間となりました。1年生を並ばせた後、自分の場所に戻る6年生がバディの1年生とハイタッチをしている姿には、心が温かくなりました。

さて、上星川小では年間を通してペア学年での「なかよし活動」を行っています。おめでとうの会での1年6年のバディ活動も、その一つの形です。異学年との交流活動は、なかよし集会やなかよし遠足など年間を通して計画され、上の学年の子ども達は自分の役割を自覚し、相手の笑顔や「ありがとう」の言葉に達成感を得る経験を積み重ねていきます。下の学年の子ども達は、活動を楽しみながらも次は自分たちがあのようなリーダーになりたいという憧れの気持ちを高めます。そのような取組からは、相手のことを思いやる気持ちが育つと同時に、自分が相手の役に立っているという思い、いわゆる「自己有用感」が高まります。自己有用感とは「自分は周りの人の役に立っている。自分は価値ある存在だ。」と思える感情です。ペア学年の友達が楽しんでくれた、自分の声かけで相手ががんばっていた、相手が困っているときに手を貸したら「ありがとう」と言ってくれた・・なかよし活動でたくさん見かける光景が、実は子ども達の自己有用感を育てているのです。自己有用感が高まると、自分に自信がもて、何事にも前向きに取り組むことができるようになります。そして、他の人の良さを認めたり、人に優しく接したりすることができる。さらには人への感謝の気持ちも高まり、人とのよりよい関係が築かれていくのだと思います。

5 月になると、なかよし遠足に向けてのペア活動が始まります。相手のために一生懸命取り組む星の子の自己有用感がさらに高まり、輝く星の子の姿がたくさん見られることが楽しみです。